

令和4年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立岡部小学校
校長 木村 実

1 学校経営方針

小学校学習指導要領では、新しい時代に必要となる育成すべき資質・能力を「学びに向かう力・人間性等の涵養」「生きて働く知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」としている。

これからの時代を生きる子ども達が「人間としての強み」である「新しいことを発想する力」「自分の考えを相手に伝える表現力」「役割を考え自発的に行動する力」「コミュニケーション能力」などを身に付け、子ども達自らが、自分の人生を切り拓き、生き抜いていく力を培っていくことが求められている。

また、GIGAスクール構想に基づく積極的なICT機器の活用により、多くの情報から主体的に必要な情報を収集し、自ら情報を発信する情報活用能力の育成や、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実など教育の質の向上と、子ども自身がこれからの未来社会を生きるために不可欠な資質、能力を身に付けることも求められている。

そのようななか、学習指導要領、大阪府教育振興基本計画、四條畷市教育振興基本計画の趣旨を踏まえ、本校においては学校教育目標を「健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども」の育成とし、学校経営の核と位置づける。この目標を達成するため、計画的、継続的に見直しを図りながら、学校を安心安全の場とし、児童一人ひとりにとって温かい居場所がある学校を教職員と共に創造していきたい。その根幹をなすのは『授業づくり』と『集団づくり』を2本柱とし、この両輪を機能させ、教職員のベクトルを揃え、学校を運営していく。

また、学校教育目標の実現には、教科横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラムマネジメントの視点も充実させ、知・徳・体バランスのとれた「生きる力」を育む教育活動を展開し、未来にはばたく子ども達の育成に努めたい。

さらに、今年度も引き続き、大阪府教育庁の「確かな学びを育む学校づくり推進事業(TM)」の研究指定を受け、算数科を中心に児童の学力向上をめざした授業改善に取り組む。全教職員で力を合わせ、効果的な指導方法の模索や授業実践など、意欲的な教育活動の展開に努め、子ども達が安心して生き生きと活動し、日々成長することができる授業の実現に向けて努力したい。そして、研究の成果を広く発信していく。

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	○学校教育目標「健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども」の育成 ・子どもが生き生きと活動する安心安全な学校 ・保護者や地域とともに子どもを育む学校 ・教職員が互いに切磋琢磨し高め合う学校
★めざす子ども像	○何事にも自分の考えを持ち、主体的・意欲的に取り組み、思いを表現できる子 ○「お・か・べ」・・・「お」もいやる 「か」んしゃする 「べ」ストをつくす ・相手の気持ちを考える優しく豊かな心の子 ・自分の弱さに負けない強くたくましい心の子
★めざす教師像	○子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ○主体的に問題を捉え、広い視野で解決できる教師 ○人間愛にあふれ、明るく前向きに職務を遂行できる教師

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

本校の子ども達の強みは、元気で優しく素直で、任せられたことは責任を持ってやり切る力があることである。そんな長所を持つ児童に対し、さらに求めたいのは、リーダーシップを発揮したり、自分で考えて行動したり、自分の思いを表現したりすることである。

(2) 子どもたちを取り巻く環境(新型コロナ対策を意識した「新しい生活様式」のもと)

①教育環境

教育環境には恵まれている。ハード面では、明るい教室、開放的な廊下、各教室には空調設備や大型テレビが配置され、個人用タブレットPCが配布されている。ソフト面においても、子ども達は教職員の指導のもと、校内の学習規律を大切に、落ち着いた雰囲気の学習環境の中、安心して日々の学習活動に取り組むことができています。

②地域

地域には学校に協力的な方が多い。子ども達の地域行事への参加や社会見学の受け入れや、見守り活動など様々な方面から、本校の教育活動を支えていただいている。学校評議員の皆様などを年に数回学校にお招きし、地域での子ども達の様子について情報を交換している。

③組織(教職員、PTA、保護者)

PTA組織は役員を中心にまとまり、役割を分担し、協力して各活動に取り組んでいる。また、毎年秋のPTA行事「岡部の集い」に向け、子ども達を楽しませようと、クラスごとに工夫を凝らした模擬店の企画を考え、保護者同士のつながりを深めている。そこに、教職員が加わり、子ども達を中心にすえた大人のつながりが深まっている。

4 今年度の達成結果、具体的な方策 ※(児)児童アンケート、(保)保護者アンケート、(教)教員アンケートより

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
学校の教育力の充実		市授業改善に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
全学年での研究授業の実施	100%	100%実施	TM 公開授業もあり、支援学級も含めて全教員が研究授業を行い、府および市域へ発信する機会をもつことで研究を深め、個々教員の授業力向上につながっている。
授業はわかりやすく楽しい(児)	(児)90%	(児)91%	四條畷市授業スタンダードに基づき、各時間のめあての提示や具体物の提示、振り返りの充実など「わかる」授業をすることで、児童の「楽しい」に繋がっている。
学校に行くのが楽しい(保)(児)	(児)90% (保)92%	(児)83% (保)91%	児童の回答が昨年度より7ptの下降が見られる。「楽しい」と答えた内容がどのようなものかを分析し、改善するポイントを見出したい。そこから次年度の施策へとつなげ、それぞれに居場所のある学校、学年、学級づくりを推進していく。
担任等はお子さんの気持ちを理解し、家庭と適切に連携を図っている(保)	(保)95%	(保)92%	保護者との連携は必須であり、共に同じ方向を向いて児童に向き合うことが大切。昨年度より数値が減少したものの、概ね連携を図れていると捉えている。

自分を大切にすることや相手への思いやり、感謝について道徳などで学んでいる(児)(保)	(児)98% (保)96%	(児)94% (保)94%	各学年において学年目標を掲げ、その実現に向け様々な取組みを行っている。また、道徳の時間を要として、学校教育活動全体を通して道徳教育推進に取り組んでいる。
--	------------------	------------------	--

目標設定区分2 『学校組織の運営』			
A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
学校組織力の向上と運営体制の見直し		学校教育自己診断アンケート(教)	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
各分掌や学年間の連携は円滑かつ有機的に機能している	(教)100%	(教)94%	報告、連絡、相談を心がけ、分掌間、学年間では連携は取れている。今後はより有機的に機能するようそれぞれの学齢や教育課程を考慮し、必要な連携を行う。
様々な問題事案を未然に防止するため、生活指導部が中心となって取り組んでいる	(教)100%	(教)100%	保護者からの相談や地域住民からの学校に対するご意見等について、迅速な対応を心がけた。また、成長を促す指導として、児童会活動や委員会活動を中心に、子どもの自主性、主体性を尊重し、より良い岡部小を作る担い手として、取組みを行ってきた。

目標設定区分3 『人の管理・育成』			
A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
教職員の資質の向上		学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
初任者など経験の浅い教職員を学校全体で育成している	(教)90%	(教)89%	TM校として全学級授業公開するにあたり、各学年間で相談し、授業づくりを行うことで経験の浅い教員の育成にあたった。また、初任者研修では、ほとんどの教員が研究授業に参加し、反省会では自分の経験も踏まえた発言を行い、初任者の育成に寄与している。
サービス、不祥事の防止について、職員会議で周知徹底を図る	100%	職員会議、終礼等、適宜実施	サービス、不祥事防止について、府からの通知やセルフチェックシートなどを活用し、自身の問題として意識できるよう周知を図ってきた。また、新聞記事や大阪府の教職員の処分に関する情報を随時紹介し、不祥事防止に努めた。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』			
A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
地域の教育コミュニティづくりと家庭教育への支援		学校評議員会での成果や課題に対する助言の共有内容 学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			

項目	達成基準	結果	評価
ホームページ更新	月1回以上	月に2回以上更新	ホームページには学校だよりのほか、家庭学習通信、保健だよりのほか、学校のきまり、生活のきまり、学習者用タブレットPCに係る諸注意など、都度紙媒体の配布のタイミングで更新し、情報発信に努めた。
学校運営協議会の設置	設置	設置	1月23日(月)皮切りに、全3回の委員会会議が開催された。形は整うものの、西中校区の地域の様子を踏まえ具体的な内容について、今後協議を重ねていきたい。
宿題を含む家庭学習では、15分×学年の時間を取組んでいる	(児)70%	(児)57%	時間の確保も必要であるが、家庭学習の内容を充実させるために、児童下足室前に自主学習の好事例や教職員が作成した大人の本気自主学習などを掲示し、意欲喚起を図ってきた。また、本年度導入されたAI型ドリルの解説を活用したハイブリッドな自主学習や、スクールタクトを使った自主学習など、多様な学び方があることも児童に指導していく。 今後は児童自ら課題を設定し、自主的に問題解決できるような道筋を示していきたい。

5 総合評価と次年度に向けて

①学校教育自己診断アンケートより

【児童アンケートより】

肯定回答が多かった順に「通知表の成績には納得ができる」(96%)、「大型テレビ、書画カメラ、パソコン、タブレットを使った授業は、わかりやすい。」(95%)、「自分を大切にすることや相手への思いやり・感謝について道徳などで学んでいる。」(92%)となった。

逆に、肯定回答が少なかった順に、「宿題を含む家庭学習では、「15分×学年」の時間を取組んでいる。」(56%)、「絵や図、言葉を使って、考えを書いたり、伝えたりするようにしている。」(76%)、「授業や学級会などでは、意見を発表するようにしている。」(63%)となった。

このことから、授業や教育内容について概ね満足しているものの、表現する、相手に伝えることに抵抗感があることが伺える。

【保護者アンケートより】

肯定回答が多かった順に、「安全のため、正門で来校者の出入りを確認していることは、適切だと思いますか？」(97%)、「安全指導(様々な避難訓練や交通安全教室など)の取組みは適切だと思いますか？」(97%)、「学校は、お子さんの問題行動を防ぐために、適切に取り組んでいると思いますか？」(97%)となった。

逆に、肯定回答が少なかった順に、「タブレット端末は、授業や宿題などで有効に活用されていると思いますか？」(70%)、「すいすいタイム(絵や図に表す)、もくもくタイム(読解)が学力向上につながっていると思いますか？」(79%)、「お子さんは体を動かすことが好きだと思いますか？」(84%)となった。

このことから、児童の安全についての取組みが一定評価されているものの、タブレット端末をもっと有効に使って欲しいとする保護者の声を改めて認識する結果となった。加えて、自主学習の取組みについての周知不足も明らかになった。

【教職員アンケートより】

最肯定的回答が多い順に、「児童による問題行動に対して、生活指導部を中心に組織的に対応している。」(75%)、「会議の結果が教育活動や学校運営に活かされている。」(65%)、「家庭学習の趣旨を理解し、積極的に取り組んでいる。」(70%)となった。

逆に最肯定的回答が少なかった順に、「食に関する指導を計画的に実施している。」(20%)、「各教科において、教材の精選・工夫を行っている。」(45%)となった。

このことから、学校運営が概ね順調になされていると判断できるが、個別の職に関する指導や各教科の教材精選、指導の工夫について課題があると認識している教員が複数名いるということになる。今後も職員会議等で指導に関することは意思統一を図り、一枚岩で子どもの指導にあたって行く。

②四條畷市教育振興基本計画の指標に関する本校の実態について

項 目	肯定的回答(%)	
	令和4年度	令和3年度
自分には良いところがあると思う児童の割合	80.0% (↓)	89.7%
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	92.9% (↓)	95.6%
将来の夢や目標を持っている児童の割合	77.2% (↓)	79.4%

③総合評価

長引くコロナ禍の中、保護者の理解を得て通常の教育活動にもどしていくことを心がけたことにより、一定の成果をあげることができた1年であった。同時に、コロナ禍の影響を受け、不登校傾向にある児童への対応など、解決の困難な問題が累積した1年でもあった。

めざす学校像、めざす教職員像についてはおおむね達成されていると捉えているが、めざす子ども像のうち、「何事にも自分の考えを持ち、主体的・意欲的に取り組み、思いを表現できる子」については児童アンケートからもまだまだ苦手意識を持つ児童が多いことから、児童一人ひとりの子を尊重しつつ、安心して学べる、安心して間違えられる環境づくり、学校づくりを強く推進していく必要がある。

④次年度に向けて

授業改善と学級経営は学校運営の両輪とし、安心して安全な居場所づくりと、「わかった」「できた」が響き渡り、自分に自信を持てる児童の育成をめざし校長として、教職員が一丸となって取り組めるような環境の醸成を図ってきたい。